

商工会議所 L O B O (早期景気観測)

- - 平成 1 6 年 1 0 月調査結果 - -

(平成 1 6 年 1 1 月 1 日)

調査期間：平成 1 6 年 1 0 月 1 9 日 ~ 2 5 日

調査対象：全国の 4 0 4 商工会議所が 2 5 9 6 業種組合等にヒアリング
(内訳) 建設業 3 8 4 製造業 6 2 6 卸売業 2 3 4
小売業 7 4 1 サービス業 6 1 1

調査項目：今月の売上・採算・業況等についての状況 (D I 値を集計)
及び、業界として当面する問題等

D I 値について

D I 値は、売上・採算・業況などの各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値の上昇率を示すものではなく、強気・弱気などの景気感の相対的な広がりを意味する。

D I = (増加・好転などの回答割合) - (減少・悪化などの回答割合)
業況・採算 : (好転) - (悪化) 売上 : (増加) - (減少)

日本商工会議所

本件担当：産業政策部 TEL: 0 3 - 3 2 8 3 - 7 8 4 3
E-Mail: sangyo@jcci.or.jp

なお、本調査結果は日商ホームページ(<http://www.jcci.or.jp>)でもご覧になれます。

【平成16年10月調査結果のポイント】

業況DIは3カ月連続でマイナス幅が拡大し、足踏みが続く

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（30.6）よりマイナス幅が2.2ポイント拡大して32.8となり、3カ月連続でマイナス幅が拡大した。

業種別の業況DIは、製造、卸売を除く3業種でマイナス幅が拡大したため、全産業合計の業況DIもマイナス幅が拡大した。引き続き各業種で業況は好調との声はあるものの、業種間、企業間の格差も大きい。景気の先行きについても、回復に期待するとの声の一方、依然として消費の低迷や、公共事業の縮小、原油、素材価格の高騰による仕入れコスト上昇などの不安材料を訴える声が寄せられている。

【建設業】では、「受注量が増加してきた」（一般工事）との声はあるものの、「公共事業の減少は今後も続く見通しで厳しい状況」（一般工事）、「先行き不透明のため、会社をたたむ事業者も出ている」（土木工事）と、引き続き厳しい状況を訴える声や、「鋼材の値上がりにより加工品も値上がりしており、木材等の価格も上昇傾向」（建築工事）と、引き続き仕入れコストの上昇を訴える声が寄せられている。

【製造業】では、「前年同月比で仕事量は増加しており、採算も好転している」（船舶製造、修理）、「受注量が増加しており、社員を中途採用する企業も出てきている」（金属加工機械）と、業況は好調との声の一方、「受注は高水準だが、半導体設備関係で少し、停滞の傾向が出てきている」（金物類）と、先行き不透明との声や、「原料鋼材の値上げとコスト削減要求に対して、売上単価は変わらない」（輸送用機器、同部品）と、引き続き仕入れコスト上昇による厳しい状況を訴える声が寄せられている。

【卸売業】では、「台風被害による農作物の品不足により売上単価が上昇」（農畜産水産物）、「売上は前年並みで推移しており、冬物、年末商戦に期待したい」（各種商品）といった声の一方、「収益、採算面とも収支トントンか赤字でまだ模様業況が続いている」（繊維品）との声や、「単価の安い製品が出回っており、競争は激しい」（各種商品）と、引き続きデフレ傾向が続いているとのコメントが寄せられている。

【小売業】では、「実用品を中心に購買は底堅い」（百貨店）との声はあるものの、「客数は前年並みに回復したものの、単価下落が依然として続き、売上は前年同月を下回っており、今後もこの傾向が続くものと思われる」（百貨店）との声や、「雨の日が多かったため、衣、食、住全ての分野で、売上は前年同月を下回った」（百貨店）、「台風の影響により、野菜の仕入れ単価が上昇」（百貨店）と、悪天候の影響を訴える声が多く寄せられている。

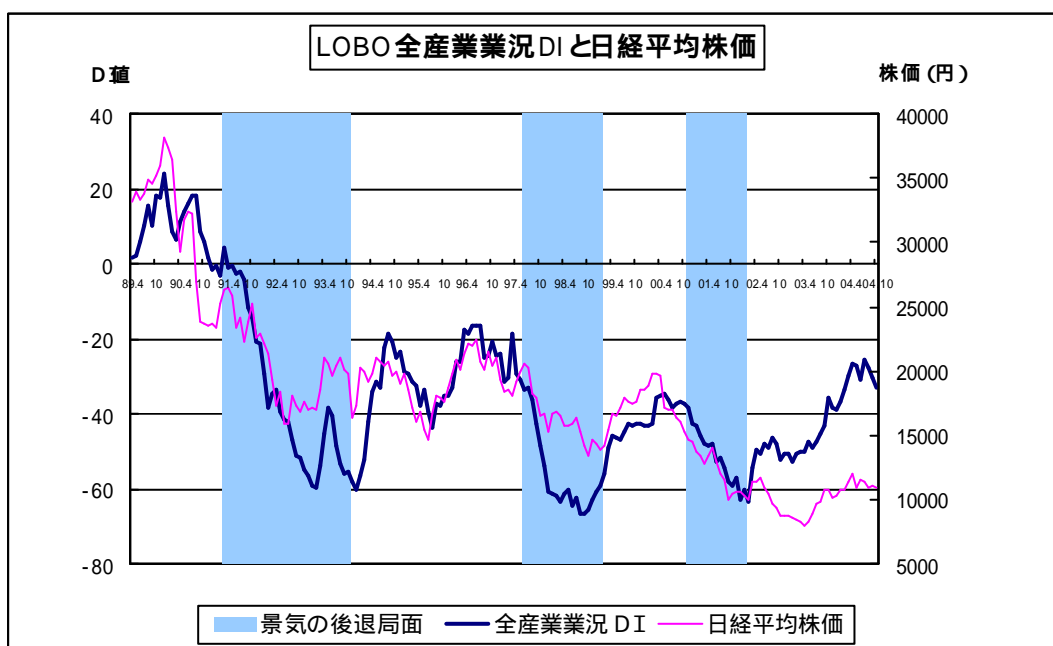
【サービス業】では、「売上は前年並みで推移している」（食堂、レストラン）との声はあるものの、「需要の減少によりプログラム開発の受注が低調で、業況は悪化している」（ソフトウェア）といった声や、「軽油価格の急騰が続き先行きも不透明で、他産業に対する弱さもあり運賃への転嫁は難しい」（運輸）と、原油価格の高騰や、「台風の来襲によるキャンセルが相次ぎ最悪の状況」（旅館）と、悪天候の影響を訴える声が寄せられている。

売上面では、D I 値のマイナス幅は製造、卸売を除く 3 業種で拡大したため、全産業合計の売上 D I は 1 . 8 ポイント拡大して 2 8 . 2 となり、3 カ月連続でマイナス幅が拡大した。

採算面では、D I 値のマイナス幅は小売、サービスを除く 3 業種で縮小したため、全産業合計の採算 D I は 0 . 2 ポイント縮小して 3 1 . 4 となり、3 カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう 3 カ月 (1 1 月 ~ 1 月) の先行き見通しについては、全産業合計の業況 D I (今月比ベース) が 2 5 . 5 と、昨年同時期の先行き見通し (2 9 . 0) と比べて改善している。

景気に関する声、当面する問題としては、引き続き各業種から業況は好調との声の一方、公共事業の縮小や消費の低迷などを訴える声が依然として寄せられており、台風、地震の影響や、原油、素材価格の高騰による仕入コストの上昇に関するコメントも多く見られた。



【業況についての判断】

10月の景況をみると、全産業合計の業況DI（前年同月比ベース、以下同じ）は、前月水準（30.6）よりマイナス幅が2.2ポイント拡大して32.8となり、3カ月連続でマイナス幅が拡大した。

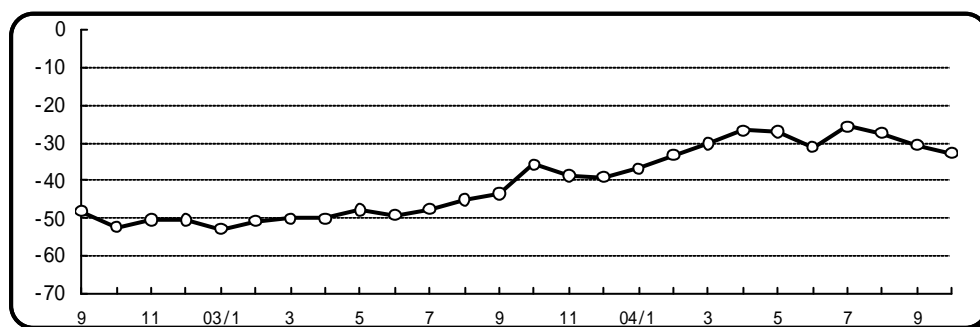
向こう3カ月（11月～1月）の先行き見通しについては、全産業合計の業況DI（今月比ベース）が25.5と、昨年同時期の先行き見通し（29.0）に比べて改善している。

業況DI（前年同月比）の推移

	16年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	27.1	31.1	25.7	27.4	30.6	32.8	25.5 (29.0)
建設	49.1	55.0	49.1	43.7	42.1	48.1	39.4 (47.4)
製造	9.1	17.8	8.5	14.6	18.4	16.6	15.2 (20.8)
卸売	29.6	26.4	28.0	33.7	34.5	31.3	21.2 (22.2)
小売	35.3	35.9	30.0	31.5	33.6	37.2	28.5 (27.1)
サービス	21.2	25.0	22.2	22.4	31.2	35.2	25.2 (30.9)

「先行き見通し」は当月に比べた向こう3カ月の先行き見通しDI
（ ）内は昨年10月の先行き見通しDI <以下同じ>

《業況DI（全産業・前年同月比）の推移》



【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

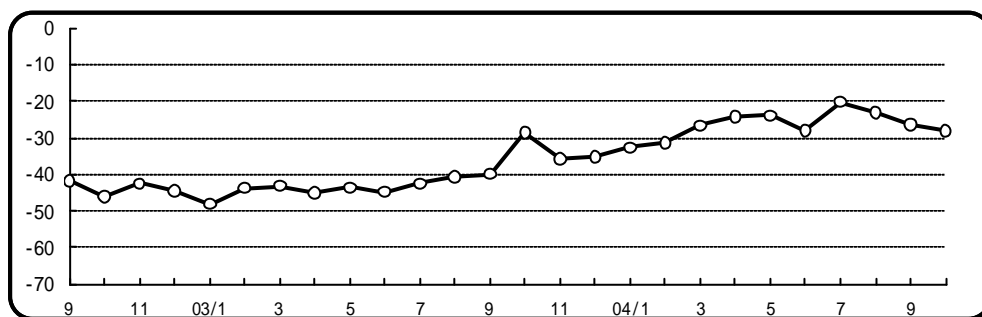
売上面では、D I 値のマイナス幅は製造、卸売を除く3業種で拡大したため、全産業合計の売上D I は1.8ポイント拡大して 28.2 となり、3カ月連続でマイナス幅が拡大した。

向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の売上D I (今月比ベース)が 21.1と、昨年同時期の先行き見通し(22.6)に比べて改善している。

売上（受注・出荷）D I（前年同月比）の推移

	16年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	23.9	28.0	20.2	23.2	26.4	28.2	21.1 (22.6)
建設	41.5	42.1	44.6	38.8	35.1	43.1	37.9 (40.9)
製造	0.9	7.8	0.4	8.1	10.8	4.0	7.9 (14.2)
卸売	27.7	30.1	20.1	29.5	34.5	28.3	15.8 (20.4)
小売	36.7	38.3	25.8	28.2	31.1	37.3	25.8 (20.9)
サービス	22.2	26.9	19.1	20.0	28.6	33.3	20.0 (22.8)

《売上（受注・出荷）D I（全産業・前年同月比）の推移》



【採算の状況についての判断】

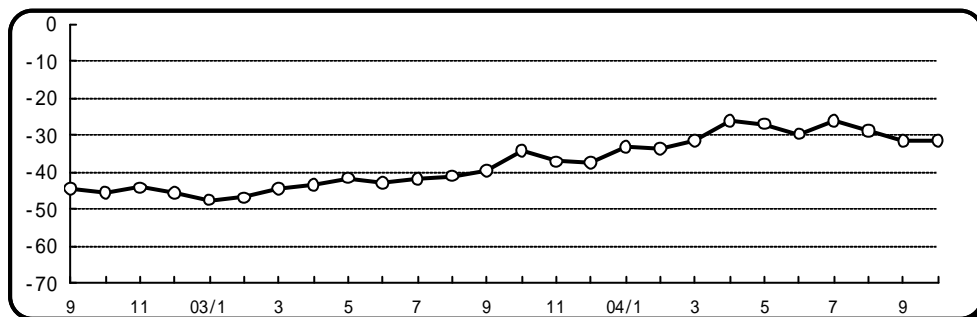
採算面では、D I 値のマイナス幅は小売、サービスを除く3業種で縮小したため、全産業合計の採算D I は0.2ポイント縮小して 31.4となり、3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。

向こう3カ月(11月～1月)の先行き見通しについては、全産業合計の採算D I (今月比ベース)が 25.4と、昨年同時期の先行き見通し(26.1)に比べて改善している。

採算D I (前年同月比)の推移

	16年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11～1月
全産業	26.9	29.7	26.2	28.8	31.6	31.4	25.4 (26.1)
建設	49.1	52.9	52.1	45.5	48.7	45.9	44.3 (47.6)
製造	15.0	21.9	17.1	23.8	24.4	22.9	18.5 (22.8)
卸売	28.9	23.9	21.3	31.3	27.4	22.9	18.2 (24.0)
小売	27.5	28.1	22.8	28.1	29.1	31.9	24.6 (17.2)
サービス	23.6	26.7	24.7	22.6	32.8	33.5	23.5 (27.6)

《採算D I (全産業・前年同月比)の推移》



(参考)

資金繰りD I (前年同月比)の推移

	16年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	21.6	22.8	20.5	20.0	21.2	21.7	19.9 (23.4)
建設	37.9	37.5	40.8	36.5	36.1	37.8	35.3 (38.1)
製造	14.8	18.6	14.7	16.2	16.3	15.5	14.2 (21.4)
卸売	23.3	23.1	14.2	16.8	17.4	16.4	14.6 (18.2)
小売	17.2	18.2	17.4	16.0	19.1	19.8	16.9 (19.3)
サービス	22.0	21.2	17.7	17.3	19.6	20.7	21.0 (23.0)

D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【前年同月比D I】製造、卸売を除く3業種で悪化超感が強まったため、全産業合計でも2カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて悪化超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

仕入単価D I (前年同月比)の推移

	16年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	14.7	15.9	15.1	14.1	16.5	21.2	19.5 (7.1)
建設	22.4	27.2	24.1	21.5	23.1	27.8	24.6 (7.7)
製造	30.0	31.9	32.1	31.2	35.7	33.7	28.1 (12.3)
卸売	9.4	9.3	12.3	6.0	14.6	18.7	25.5 (4.8)
小売	1.4	1.6	1.8	2.7	3.0	9.6	8.2 (1.2)
サービス	11.0	11.4	7.9	8.2	8.4	18.0	17.8 (9.1)

D I = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【前年同月比D I】製造を除く4業種で上昇超感が強まったため、全産業合計でも2カ月連続で強まる。

【先行き見通しD I】全業種で昨年同時期に比べて上昇超感が強まり、全産業合計でも強まる見通し。

従業員 D I (前年同月比) の推移

	16年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全産業	8.6	7.5	6.2	6.2	5.3	6.1	7.3 (11.2)
建設	29.9	27.4	27.6	25.6	23.0	22.0	17.4 (23.7)
製造	5.3	6.0	3.6	6.2	3.2	5.0	9.9 (13.2)
卸売	11.9	10.4	6.7	7.2	9.7	10.8	8.6 (11.5)
小売	3.0	1.2	1.0	0.8	2.0	1.4	4.3 (6.5)
サービス	3.5	2.2	0.5	1.2	2.3	0.2	0.3 (5.8)

D I = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

【前年同月比 D I】建設、小売を除く 3 業種で過剰超感が強まったため、全産業合計でも 5 カ月ぶりに強まる。

【先行き見通し D I】全業種で昨年同時期に比べて過剰超感が弱まり、全産業合計でも弱まる見通し。

【平成16年10月の景気キーワード】

回復への動き

引き続き各業種から、業況の改善と先行きに期待する声が寄せられている。建設、製造からは「増改築需要の増加が見られる」(唐津・建築工事)、「自動車部品関連が順調」(日立・電気機械部品等製造)、「中国での需要が好調で、売上、採算とも順調に推移している」(川越・金属製品製造)、「自動車、家電、建築関連の鋼材需要は引き続き堅調で、しばらくは好況感が続くと思われる」(呉・製鉄)といった声が寄せられている。卸売、小売、サービスからも、「買い手が増え、売上も増加し業況は好調」(玉名・農畜産水産物卸売)、「薄型テレビとDVDレコーダー関連の売上が順調」(玉野・各種小売)、「観光客の入り込みが依然、好調」(釧路・食堂、レストラン)と、消費が好調との声や、「人材不足のため、派遣社員の募集を強化している」(名古屋・人材派遣)と、一部で人手不足感が出ているとの声が寄せられている。

景況感格差

景気の現状と見通しについて不安材料を訴える声も多く、景況感の格差が続いている。「市の公共工事は年度内はもうほとんどなく、非常に厳しい」(因島・一般工事)、「6月頃から徐々に携帯電話、デジタルカメラ関係の在庫調整が行われており、先行きに注意が必要」(茅野・電子部品製造)と、先行き不透明との声や、「地域経済の低迷により売上は低調」(江津・百貨店)、「確実に売上が減少しており、不安が増している」(伊東・食堂、レストラン)と、依然、厳しい状況を訴える声が寄せられている。また、「原材料の高騰は止まることなく、利益率が低下している」(山形・鉄素形材製造)、「原油価格の高騰により、石油を原料とする原糸の価格高騰が懸念される」(五泉・ニット、シャツ製造)と、引き続き仕入れコスト上昇の影響を訴える声が寄せられている。

天災

今月も前月に続き、相次ぐ台風や地震による天災の影響を訴える声が寄せられている。「大型台風の直撃を含め雨の日が多く、客数、売上は低迷」(沼津・百貨店)、「9月から相次ぐ台風の影響で売上の減少に歯止めが効かない状況」(熊本・商店街)、「台風の影響で海が時化、漁獲量が減少したため売上が減少」(境港・農畜産水産物卸売)、「台風の影響で客足は伸びず、生肉、卵やネギなどの葉ものが高騰し、価格に転嫁できず苦しい状況」(相模原・一般飲食店)、「相次ぐ大型台風の上陸や地震の被害の大きさに心理的不安感が生じている」(横浜・商店街)といった声が寄せられている。また、「災害復旧工事で現在は多忙」(西条・土木工事)とのコメントも見られた。

【景気キーワードの推移】

年 月	景気キーワード		
16年 8月	回復への動き	景況感格差	天候の影響
9月	回復への動き	景況感格差	天災
10月	回復への動き	景況感格差	天災

景気キーワードは、調査対象組合の各月におけるトピック・関心事項などに関しての自由回答をまとめたもの。

【産業別概況】

産 業	概 況
建 設	業況D Iは4カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶりにマイナス幅が拡大し、採算D Iは2カ月ぶりに縮小した。「受注量が増加してきた」(一般工事)との声はあるものの、「公共事業の減少は今後も続く見通しで厳しい状況」(一般工事)、「公共、民間工事とも低迷しており、一部の企業では異業種に進出することを計画している」(建築工事)、「先行き不透明のため、会社をたたむ事業者も出ている」(土木工事)と、引き続き厳しい状況を訴える声や、「鋼材の値上がりにより加工品も値上がりしており、また、木材等の価格も上昇傾向」(建築工事)と、引き続き仕入コストの上昇を訴える声が寄せられている。
製 造	業況、売上、採算D Iとも3カ月ぶりにマイナス幅が縮小した。「前年同月比で仕事量は増加しており、採算も好転している」(船舶製造、修理)、「受注量が増加しており、社員を中途採用する企業も出てきている」(金属加工機械)と、業況は好調との声の一方、「受注は高水準だが、半導体設備関係で少し、停滞の傾向が出てきている」(金物類)と、先行き不透明との声や、「外国産の安い紙に押されて依然、業況は悪い」(紙類)、「窯業界ではなかなか業況回復の兆しが見えない」(陶磁器、同関連)と、依然として業況は厳しいとの声、また、「原料鋼材の値上げとコスト削減要求に対して、売上単価は変わらない」(輸送用機器、同部品)と、引き続き仕入コスト上昇による厳しい状況を訴える声が寄せられている。
卸 売	業況D Iは4カ月ぶり、売上D Iは3カ月ぶり、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が縮小した。「台風被害による農作物の品不足により売上単価が上昇」(農畜産水産物)、「売上は前年並みで推移しており、冬物、年末商戦に期待したい」(各種商品)といった声の一方、「売上に多少動きはあるが横ばい」(各種商品)、「収益、採算面とも収支トントンが赤字でまだら模様の業況が続いている」(繊維品)との声や、「単価の安い製品が出回っており、競争は激しい」(各種商品)と、引き続きデフレ傾向が続いているとのコメントが寄せられている。
小 売	業況、売上、採算D Iとも3カ月連続でマイナス幅が拡大した。「実用品を中心に購買は底堅い」(百貨店)との声はあるものの、「客数は前年並みに回復したものの、単価下落が依然として続き、売上は前年同月を下回っており、今後もこの傾向が続くものと思われる」(百貨店)との声や、「天候が悪く、体育の日の3連休に台風が直撃したこともあり、売上は低調」(商店街)、「雨の日が多かったため、衣、食、住全ての分野で、売上は前年同月を下回った」(百貨店)、「台風の影響により、野菜の仕入単価が上昇」(百貨店)と、悪天候の影響を訴える声が多く寄せられている。
サービス	業況、売上D Iは3カ月連続、採算D Iは2カ月連続でマイナス幅が拡大した。「売上は前年並みで推移している」(食堂、レストラン)との声はあるものの、「需要の減少によりプログラム開発の受注が低調で、業況は悪化している」(ソフトウェア)、「秋の観光シーズンだが、週末に大型および中型旅館の一部が満室になるのみで、他の施設は空室があり、最近問題になっている温泉表示の問題の影響もかなり出ているものと思われる」(旅館)といった声が寄せられている。また、「軽油価格の急騰が続き先行きも不透明で、他産業に対する弱さもあり運賃への転嫁は難しい」(運輸)と、原油価格の高騰や、「台風の来襲によるキャンセルが相次ぎ最悪の状況」(旅館)と、悪天候の影響を訴える声が寄せられている。

(参考)

【ブロック別概況】

ブロック別の業況DI(前年同月比ベース)は、北海道、北陸信越、東海でマイナス幅が縮小したが、他の6ブロックで拡大したため、全ブロック合計でも3カ月連続で拡大した。

ブロック別の向こう3カ月(11月~1月)の業況の先行き見通しは、北陸信越を除く8ブロックで昨年同時期と比べて改善している。

ブロック別・全産業業況DI(前年同月比)の推移

	16年 5月	6月	7月	8月	9月	10月	先行き見通し 11~1月
全 国	27.1	31.1	25.7	27.4	30.6	32.8	25.5 (29.0)
北海道	28.0	31.8	28.7	28.1	28.4	23.7	25.6 (26.1)
東 北	33.1	36.0	31.1	30.7	35.9	37.9	35.3 (36.3)
北陸信越	25.3	27.5	27.4	22.0	35.0	33.1	32.4 (26.5)
関 東	23.8	29.0	22.1	23.0	23.0	27.0	17.1 (21.6)
東 海	23.0	28.0	18.8	24.3	23.4	20.0	18.2 (27.1)
近 畿	27.5	29.2	28.2	34.3	35.4	37.5	33.7 (35.9)
中 国	31.3	34.6	26.7	30.3	33.3	42.1	28.6 (33.6)
四 国	30.0	38.7	31.7	36.2	43.4	49.3	21.7 (30.3)
九 州	29.3	32.1	23.3	24.1	29.3	33.2	26.1 (31.5)

